

新世代CBシリーズでは、カラーリングに対しても車両の持つ質感の高さを表現する手段と位置づけ、シリーズを通して込めた作り手の想いをより印象深く伝えることを目指しました。

さらにCB1000Rでは、高密度な車体シルエットの基軸であるマス集中化をカラーリングでも表現。車体重心上に位置するフューエルタンクとシートの境界部に2トーン塗装を施しました。各主体色とも共通の金属質感溢れるシルバーで塗り分けることにより、モーターサイクルならではのメカニカルな表情を強調するとともに、CB1000Rの存在感をさらに高めています。

●新世代の「赤」

Hondaは1948年に創業しました。Hondaの二輪車は、それ以来380種を超える「赤」で彩られてきました。現在「赤」は、二輪車はもとよりHondaそのものを象徴する色となっています。そしてどの「赤」も、Hondaの歴史が常にスポーツ、パッション、チャレンジによって紡がれて来たことを物語っています。

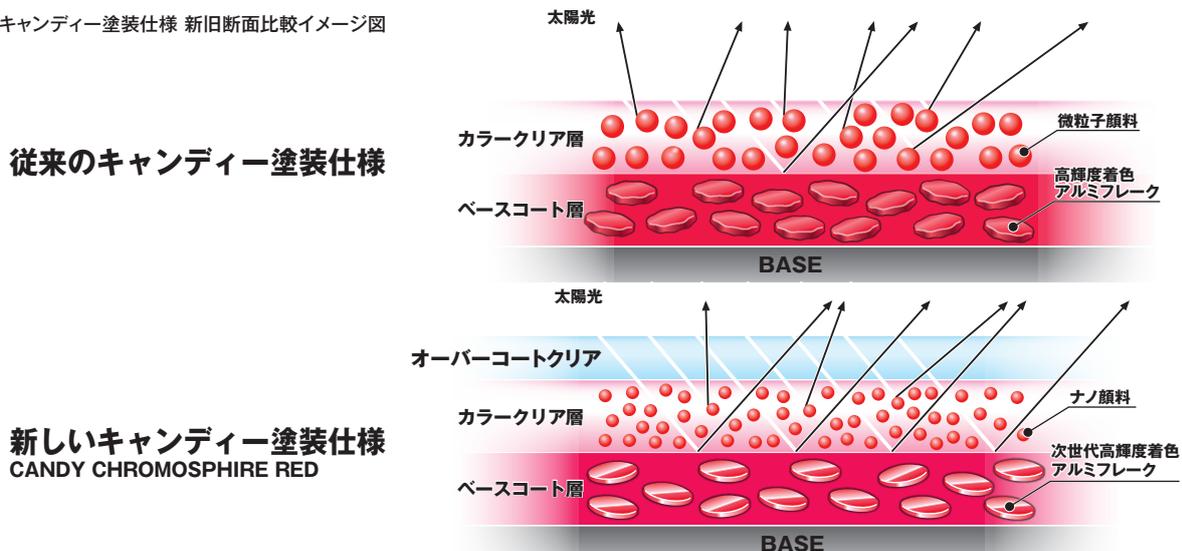
2018年、Honda創業70周年を迎えるにあたり、この歴史が世界中のお客様によって作り上げていただいたものであることを改めて振り返ると共に、それをさらに未来につなげて行く決意を込めて新世代の「赤」をFunカテゴリーモーターサイクルに適用します。

●キャンディークロモスフィアレッド

CHROMOSPHEREは太陽の「彩層」「色圏」の意。Hondaの二輪車、その情熱をいつの時代にも彩ってきた「赤」の象徴となり得ることを願い名付けました。

ベースコートにカラークリア、さらにオーバーコートクリアを塗り重ねた3層構造のキャンディー塗装仕様とし、ベースコートには従来のアルミフレークよりさらに薄くなめらかな表面で反射率を上げた“次世代高輝度着色アルミフレーク”を採用することで、より強くシャープな輝きを実現。また、カラークリアには“ナノ顔料”を採用することで、ベースコートに到達する光の透過率を格段に向上させました。これらにより従来のキャンディー塗装では成し得なかった、稜線を走る光線のようなハイライトと深い陰影が織りなす劇的な表情変化によりフューエルタンクの立体感をより雄弁に演出します。

■キャンディー塗装仕様 新旧断面比較イメージ図



ベースコートには、従来よりさらに薄くなめらかな表面で反射率を上げた“次世代高輝度着色アルミフレーク”を採用し、強くシャープな輝きを獲得。カラークリアには、従来よりさらに細かい“ナノ顔料”を採用することで、ベースコートに達する光の透過率を格段に向上。高彩度の透明感と、見る角度で色味が大きく変わる性質により豊かな立体感を実現。